

広がる汚染、増える患者



私たちが毎日吸っている空気によって、病気になるなんて誰が考えるでしょうか。

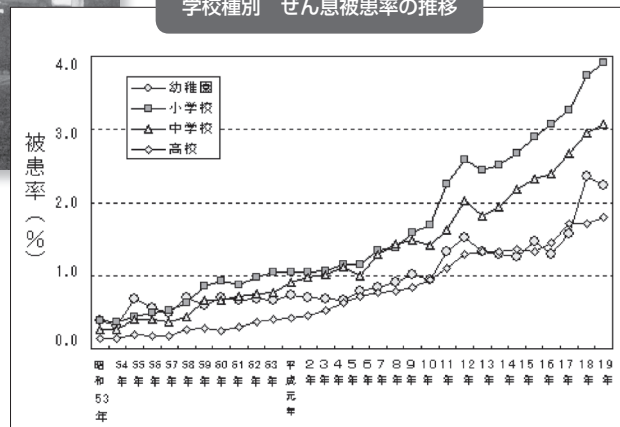
目に見えないほど小さなチリ（PM2.5＝微小粒子状物質）が私たちの肺の中に入り、健康を害します。PM2.5は、自動車排気ガスにたくさん含まれています。

ですから、汚染地域も広がり、その結果子どもたちをはじめ、被害者が増え続けています。誰もが安心して深呼吸のできるきれいな空気と環境を取り戻したいと思います。

環境をよくしてほしいと四日市、千葉、大阪・西淀川、川崎、倉敷、兵庫・尼崎、名古屋、そして東京と裁判が提起され、被害者が勝利しています。被害者は、自動車排気ガスを断罪した判決が示すように空気を汚した道路の設置・管理者である国や自治体、すべての発生源企業、自動車メーカーの責任で一日も早く被害者救済制度を実現したいと思います。



学校種別 ぜん息被患率の推移



もう待てません！

大気汚染による公害健康被害者の救済

クルマの排ガスで空気が汚される

大気汚染によってぜん息などの公害病になった人はピーク時（1988年）大阪で3万4千人、全国で11万人を超えていました。財界と国が「公害はなくなった」と、新たな患者の救済を打ち切った年です。

それから23年、空気の汚れはよくなったのでしょうか？ 工場からクルマへ、大気汚染の主役が入れ替わり、道路沿道を中心に環境基準を超える深刻な汚染が続いています。しかも、自動車排ガスに含まれ、呼吸器や循環器にも健康影響を与えるPM2.5（微小粒子状物質）による汚染が広がっています。

きれいな空気を子どもたちに手渡す署名です

子どもたちのぜん息が増え続けています。大阪市の学校保健統計によると、子どものぜん息被患率はこの20年間で、小学生は1.8倍、中学生で2.5倍、高校生では3.8倍も増えています。そして、ぜん息は子どもだけでなく大人・高齢者も発症する病気です。

人は呼吸なしに生きることはできません。

空気の汚れが原因で病気になった人たちの救済制度をつくる活動は、大気汚染をなくして子どもたちにきれいな空気を手渡すことにつながります。

東京都や川崎市ではすでに実施しています

東京都では2008年の8月から気管支ぜん息の患者に対して全年齢を対象に、しかも東京都全域を対象にした医療費助成制度を実施しています。川崎市はそれより早く2007年の1月から実施しています。

大阪でも救済制度を実現するために、署名にぜひご協力ください。